



理事長就任のご挨拶

令和6年6月に、理事長に就任した吉澤英樹でございます。

当協会は、昭和43年6月に「財団法人放射線照射振興協会」として設立されました。平成8年には社会的ニーズである研修事業の展開にも対応するため、名称を「財団法人放射線利用振興協会」に改め、さらに平成20年に施行された公益法人制度改革関連法を受けて、平成24年10月に一般財団法人に移行しました。

当協会の目的は、放射線利用を振興するとともに、原子力の利用に係る知識及び技術の普及を推進することにより、国民生活の向上及び持続発展可能な社会の構築に寄与することです。

その目的を実現するため、東海事業所では、日本原子力研究開発機構殿のJRR-3の利用者支援、JRR-3及びJ-PARCの中性子ビームを産業利用に結び付ける中性子ビーム実験サービス、放射線取扱主任者免状取得に必要な講習を含む各種研修事業などを展開し、原子力利用の技術移転及び人材育成に寄与しております。また、高崎事業所では、量子科学技術研究開発機構殿のTIARAの利用者支援、ガンマ線・電子線による照射サービス、放射線利用に係る技術相談等を通じて、放射線利用の普及促進に努めております。

原子力や放射線の利用は、すでに産業界の様々な分野で実用化され、国民生活の中に定着しておりますが、近年、DXの進展とともに新たなノベーション創出に繋げようとする動きが広がっています。そのような状況の中で、当協会の使命であります「放射線利用」と「原子力・放射線に関する知識・技術の普及」につきましても、新たなイノベーション創出の動きを下支えするためにますます重要になっていると認識しており、役職員一同、当協会の使命を果たすべく、今後とも一層の努力を続けてまいります。

私も長年にわたり放射線を利用した研究・教育に携わった者として、微力ではございますが、原子力・放射線利用の振興のため努力してまいりますので、前理事長の柴田誠一と同様、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。